

<p style="text-align: center;">日本古代技術史 (Ancient History Arts in Japan)</p>	<p style="text-align: center;">1 年後期・2 単位・選択必修 3 専攻共通 担当 大矢 良哲・上島 智史</p>	
	<p style="text-align: center;">〔システム創成工学教育プログラム 学習・教育目標〕 A-1 (75%), B-2 (25%)</p>	<p style="text-align: center;">〔JABEE 基準〕 (a), (d-1)</p>
<p>〔講義の目的〕</p> <p>本講座は、先人たちの心と技の素晴らしさを、現代の科学の研究成果から見直す試みである。講義では本校の恵まれた立地条件を生かし、「世界遺産」に登録された奈良や京都の文化遺産を訪ねて実物を前に、その構造や技法の見方、歴史上における位置づけなどをわかりやすく解説する。直接こうした文化遺産に触れ、鑑賞のポイントを知ったときには、ハイテク文明の中に生きている人たちもまた、先人たちの智慧と技に改めて驚かされるにちがいない。学生諸君がこうした人類の遺産に直接接することで、感動を覚え、その歴史に思いを馳せ、文化財に興味をいだいてくれれば幸いである。</p>		
<p>〔講義の概要〕</p> <p>世界遺産は時代の生き証人である。文化財自体は黙して語らないが、文字では表しえない無限の内容を含んでいる。そうした文化財に工学、技術の歴史の視点を設定し、その本質に迫る。</p> <p>〔履修上の留意点〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業は教室での座学と臨地講義の 2 つの形態で実施する。本講座の場合、文化財を前に理解を深めるところに特色があるので、まず履修にあたっては現地講義に対応できるようにすることである。 2. 臨地講義は全日または半日の時間を要するため、授業日を振り替えて行う。 3. 遅刻や見学時の私語は厳禁。 4. 拝観料（総額約 5000 円）と交通費は自己負担となるので準備すること。 		
<p>〔到達目標〕</p> <p>日本の文化がアジアとの交流で生み出されたことを理解し、各時代の文化の特徴を把握する。講座を通じて、工学の立場から身近にある世界文化遺産について理解を深めるようにする。</p>		
<p>〔自己学習〕</p> <p>シラバスによって、授業前に予習し、準備をしておく。講義の後は、授業内容について配布資料を基に復習し、理解を深める。</p>		
<p>〔評価方法〕</p> <p>本評価については、授業に臨む姿勢（授業への参加状況を含む、70 点）を重視しながら、期末レポート（現地見学を踏まえたもの）等の内容（30 点）を加える。期末レポートは、この授業の中で見学した文化遺産を読み解く能力を評価する。教科の性格上、講義への参加度が重要視されるため、授業時間の 3 分の 2 以上の受講がない場合は、成績評価の対象にしない。</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>毎回プリント資料を配布する。</p> <p>〔参考文献〕</p> <p>『奈良・京都の古寺めぐり』『奈良の寺々―古建築の見かた』（いずれも岩波ジュニア新書）など、入門者のための書物があるので、適宜活用する。</p>		
<p>〔関連科目〕</p> <p>日本の古代技術の学習には、まず大きく文化史の流れをつかむこと、前後の時代の流れのなかでとらえること、基礎を固めることが大切である。学生諸君が本科の「歴史Ⅰ」等の学習内容を生かし、理工学の最先端を学んでいる立場から、新学問分野として研究対象にされることを願っている。</p>		

講義項目・内容

講義数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1講	ガイダンス	講義の総論と講義のすすめ方を説明する。	
第2講	天文と計時	古代の飛鳥びとは宇宙をどう観ていたか、また時間をどのように考えていたか、キトラ古墳と水落遺跡などの発掘成果をもとに考察する。	
第3講	正倉院と宝物	正倉院と宝物について、見方・技法をエピソードも交えて解説し、今年度の正倉院展出品についても紹介する。	
第4講 第5講 第6講	世界遺産 東大寺の技術	<p>【臨地講義】～天平のテクノ・ルネサンスから学ぶもの～ (転害門・大仏殿・法華堂・正倉院・南大門・奈良国立博物館)</p> <p>東大寺では、大仏殿と三月堂を中心に天平の建築・彫刻・絵画を見学し、鎌倉復興期における南大門の様式、仁王や石獅子などの彫刻について解説する。また、正倉院宝庫と奈良国立博物館で開催される「正倉院展」も同時に見学する。</p>	
第7講 第8講 第9講	世界遺産 平等院の技術	<p>【臨地講義】～浄土世界の空間構成と日本の木彫技法の完成～ (平等院鳳翔館・鳳凰堂・宇治川・宇治上神社)</p> <p>日本の建築美を代表する平等院鳳凰堂は、極楽浄土を描いた曼荼羅の中の仏殿を具現化したものと伝えられる。宇治の美しい歴史的景観のなかで、鳳凰堂の細部意匠、本尊の寄木技法、壁画の彩色顔料、作庭法を講義し、その建築空間の面白さを味わう。</p>	
第10講 第11講 第12講	世界遺産 法隆寺の技術	<p>【臨地講義】～大陸文化を越えて～ (西院伽藍・大宝蔵院・東院伽藍)</p> <p>五重塔や金堂・夢殿など古代建築の構造や美の秘密を詳解。同時に多数の仏教美術品にふれ、法隆寺の大切さを認識する。</p>	
第13講 第14講	世界遺産 唐招提寺の技術	<p>【臨地講義】～古代美術の遙かなルーツ～ (唐招提寺)</p> <p>唐招提寺の金堂・講堂を中心に見学し、渡海大師鑑真の偉業について詳解する。</p>	
第15講	遣唐使の役割	最後に、異国の都で没した留学生「井真成」の墓誌を解説し、留学生たちの役割について紹介する。 レポートの提出と授業アンケートの実施。	

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)